

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

県北ニューツーリズム推進事業計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

茨城県

3 地域再生計画の区域

茨城県の県北地域（日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡大子町）の全域

4 地域再生計画の目標

4－1 地方創生の実現における構造的な課題

県北地域は、日本三名瀑の袋田の滝や五浦海岸などの景勝地、日本の原風景である里山等の豊かな自然環境を有し、温泉や食、歴史や文化などの観光資源に恵まれた魅力ある地域である。

しかしながら、県北地域における観光入込客数を対人口比で見ると、大子町が人口の60倍を超える観光客を受け入れているものの、日立市・高萩市における対人口比の観光入込客数は、茨城平均の半数程度に留まっている。観光客動態調査のアンケート結果（茨城県：平成30年度）によると、日帰り観光客が半数以上を占めており、県内観光客の1回の旅行当たりの立ち寄り拠点数についても日帰り、宿泊客とも2か所未満に留まっており、点在している観光資源を面で捉えた周遊観光の促進が図られていないのが現状である。

また、日立市、高萩市、北茨城市、大子町が作成している観光振興計画等での分析によると、共通の課題として特定の観光地への一極集中及び周遊観光が図られていないこと、観光地としての認知度の不足、体験型のコンテンツの充実の必要性、観光動向が季節で偏っており冬季の観光客が落ち込むことが課題として挙がっており、効果的なPRの実施、周遊観光・体験型観光の仕組みづくり、冬季の観光誘客のための施策の検討等が必要となっている。

一方で、県北地域は県内最高峰の八溝山や袋田の滝から奥久慈男体山にかけての縦走路、約30kmの縦走が可能な日立アルプス等の多様なハイキングコースを有しているものの、本県を代表する山岳観光の拠点であり毎年100万人以上が訪れる筑波山等の周辺山岳観光地と比較すると十分に認知されておらず、利用者の集計等も行われていない。令和元年度に高萩市（花貫溪谷・土岳）におけるモニターイベントで実施したアンケート調査では、「どのような場所か知らなかった」という意見が多く、豊富な地域資源の積極的なPRが課題として捉えられる。

令和元年度実施した県北地域のハイキングコース等の現地調査の中では、既存の看板が長年修理されておらず破損していたり、目的地までの時間や距離の表示がなく、案内板として機能していないという実態も明らかになり、利用者目線での整備がされていないことも課題となっている。

また、県北地域の常陸太田市、大子町で毎年開催されているOSJ奥久慈トレイルレースは、令和元年で11回目を迎え（令和2年は中止、令和3年は延期）、1,000人の参加定員が毎回満員となり、愛好家の間では全国有数の人気を誇るトレイルランニングのレースとなっているが、コースの一部については、道標の設置やハイキングコースとしての整備が十分に進んでおらず、通年のハイキングコースとしては活用されていないことから、未整備区間を整備し、通年のコースとして整備することにより、多くの愛好家の利用が期待できる。

近年、健康志向やアウトドアスポーツの興味・関心の高まり、自然や歴史・文化を楽しみながら歩くトレイルなどが特に注目されていることなども踏まえ、県北地域に存在する、既存のハイキングコースを活用しつつ、未整備区間の整備を進め、魅力ある地域資源をつなぎながら歩くことができるロングトレイルコースとして一体的に発信することにより、アウトドア愛好者等に対して新たな観光資源としてPRし、誘客促進を図るとともに、宿泊を伴うモデルコースの設定やガイド人材の育成、商品開発支援等を通じて、地域での滞在時間を伸ばし、観光消費の増加へとつなげていく必要がある。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本県の県北地域（日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町）は、県内の他の地域よりも高齢化の進行が著しく、将来人口についても大幅な減少が見込まれるなど、大変厳しい状況にある。

このため、県総合計画における地域づくりの基本的な考え方にに基づき「県北振興チャレンジプラン」を取りまとめ、ものづくり産業の集積を活かした産業拠点の形成や、地域特性を活かした農林水産業の振興に加えて、海岸線や里山などの豊かな自然環境やアクティビティ等を活用した交流人口の拡大などにより、県北地域の活性化を図っていくこととしている。

県北地域は、日本三名瀑の袋田の滝や五浦海岸などの景勝地、日本の原風景である里山等の豊かな自然環境を有し、温泉や食、歴史や文化などの観光資源に恵まれていることから、こうした地域に点在する自然、温泉、歴史・文化遺産、食などの多様な地域資源をハイキング道などで一体的につなぎ、広域的に歩きながら地域を巡る魅力あるロングトレイルコースとして整備し、これまで観光資源として認知されてこなかった地域の里山やハイキングコースを新たな滞在・体験型の観光資源として活用することにより、宿泊を伴う周遊型・長期滞在型の観光へと誘導し、地域での観光消費の増加を図る。

また、ロングトレイルコース等を活用し、ウォーキング、森林浴などのアクティビティや温泉、健康食などを組み合わせ、心身ともに癒される旅行スタイルの企画検討を行い、着地型旅行商品としての販売や旅行プログラムの提案、発信をしていくことにより、美容や健康などに敏感な若年層などを中心に、更なる誘客促進を図る。

さらに、地域住民や地元事業者の主体的な参画を促し、観光・交流を核とした地域づくりを促進するため、コースに来訪するアウトドア愛好家等をターゲットとしたお土産の開発支援やロングトレイルコースや地域資源を案内する人材の育成等を通じて、継続的にロングトレイルコースが活用される体制を構築する。

【数値目標】

K P I	事業開始前	2020年度増加分	2021年度増加分
-------	-------	-----------	-----------

	(現時点)	1 年目	2 年目
ロングトレイルへの来訪者数 (人)	0	2,000	4,000
県北地域での山岳イベント参加者数 (人)	1,595	105	300
事業に関連するお土産品や旅行商品等の開発 件数 (件)	0	0	1

2022年度増加分 3 年目	K P I 増加分 の累計
24,000	30,000
500	905
4	5

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

5－2の③のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

県北ニューツーリズム推進事業

③ 事業の内容

県北地域のハイキングコースや愛好者等に歩かれている山道について、今後、地域の観光資源として磨き上げを行い、新たな観光誘客に活用できるかについて令和元年度に現地確認、有識者や市町を交えた意見交換などの検討を行った。

これらの検討結果を踏まえて以下の取組を実施する。

1. ロングトレイルコースの整備

- ・令和元年度に実施した現地調査の結果を踏まえ、県北地域に点在する自然、温泉、歴史・文化遺産、食などの多様な地域資源を一体的につなぎ家族連れからアウトドアのコアな層まで様々な楽しみ方ができる魅力的なロングトレイルコースを整備する。
- ・下草刈り等のコース整備や統一したデザインの道標の設置を行うことにより、ロングトレイルコースを訪れた人が安全・快適に地域資源を巡ることができるようなコースを整備する。

2. ロングトレイルコースの情報発信

- ・ロングトレイルコース及び周辺の地域資源について、コース全体の情報や、モデルコース等の情報についてホームページ等での発信を行う。
- ・整備したロングトレイルコースや周辺の地域資源、休息所や宿泊施設等の情報を網羅したマップを作成し、繰り返しロングトレイルコースを歩いてもらえるような情報発信を行う。

3. 体験型観光・広域観光の推進の仕掛けづくり

- ・コース上にある観光果樹園や地域ならではの食や酒造への立ち寄り、既存の旅館やキャンプ場等での宿泊を伴うモデルコース設定や、ウォーキングと周辺エリアのカヌーやサイクリングなどアウトドアスポーツと組み合わせたメニューの検討などを行う。
- ・ロングトレイルコース等を活用し、ウォーキング、森林浴などのアクティビティや温泉、健康食などを組み合わせ、心身ともに癒される旅行スタイルの企画検討を行い、着地型旅行商品としての販売や旅行プログラムの提案、発信を行う。
- ・地域の事業者等と連携し、ロングトレイルコースに来訪した人が楽しめるような地域の特産品等を活用した新たなお土産品等の開発についての支援を行う。

4. 人材の育成

- ・ロングトレイルコースの来訪者に対し、ハイキングコースや観光果樹園

や地域の歴史、自然、体験観光等について案内するガイド等の人材育成を行う。

- ・関係者が事業を連携して進めるための、検討会を開催し情報交換等に努めるとともに、継続的な運営のために協議会等の立ち上げに向けた調整を行う。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

- ・（仮称）県北ニューツーリズム推進協議会を立ち上げ、県・市町からの負担金や地元企業や団体等からの協賛金等を活用することにより、自立的に事業を行う。
- ・ヘルスツーリズムのワーキンググループに参画した民間事業者等により、観光商品としてのヘルスツーリズムツアーの造成を想定している。

【官民協働】

- ・検討会は、構成員として自治体及び山岳関係団体や大学教授などの有識者が参加しており、（仮称）県北ニューツーリズム推進協議会は、アウトドア事業者や観光協会等も参画し、官民が連携しながら推進していくことを想定している。
- ・地域のアウトドア事業者（㈱ナムチェバザール、㈱ストームフィールドガイド、合同会社ポットラックフィールド等を想定）など既に県北地域や県内でアウトドアに関するガイドツアーを行っている民間事業者と連携して、ロングトレイルコースのガイドツアーの開催やヘルスツーリズムプログラムを取り入れたガイドツアーやガイド人材の育成に努めていく。
- ・令和元年度に実施しているロングトレイルコースの調査検討において、調査の際に地域の愛好者による「ロングトレイル協力隊」が発足し、現在約500名程度が参加している。令和3年度以降の事業実施にあたって、こうした愛好者等の協力を得ながら、管理やガイドを担う人材の育成につなげていく。
- ・ヘルスツーリズムのワーキンググループに地域の事業者を加え、民間事業者が自立的にヘルスツーリズムプログラムを活用できるように着地型

観光の造成に向け支援していく。

【地域間連携】

- ・ 県は県北 6 市町と関係事業者等を総括し一体的な取組を行う主体としての協議会の設置や、県北地域の一体的な情報発信やブランディングに取り組んでいく。
- ・ 市町は、ロングトレイルコースの整備、ヘルスツーリズムプログラムの開発と連動する、施策の検討や活用を進め、誘客促進に向けた取組を行う。

【政策間連携】

- ・ ロングトレイルコースやヘルスツーリズムプログラムについて、県が開発しているヘルスケアアプリでのコースの紹介等を通してヘルスケア関連施策との連携を行う。
- ・ 現在茨城県が県北地域に整備を進めているサイクリングルート「奥久慈里山ヒルクライムルート」及び「大洗・ひたち海浜シーサイドルート」の利用促進と連携することにより、アウトドアアクティビティに興味のあるターゲット層にアウトドアフィールドとしての県北地域の認知を向上させるとともに、観光スポットへの周遊性を高める。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4－2 の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度 8 月頃に、産官学金言等の外部有識者による推進組織である「茨城県総合計画審議会地方創生効果検証部会」において、KPI の達成状況などの事業実績について客観的な検証を行い、結果について公表することで、透明性を確保する。

【外部組織の参画者】

産業界、大学、金融機関、マスコミ等

【検証結果の公表の方法】

茨城県のホームページにおいて検証結果等を公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 133,613千円

⑧ 事業実施期間

2020年4月1日から2023年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2023年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4－2に掲げる目標について、7－1に掲げる評価の手法により行う。

7－3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5－2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。